

千里の鳥・万博の鳥(第88回)「オシドリ」(2020年3月)

オシドリは結婚式の祝辞で「オシドリ夫婦」「鴛鴦の契り」などと紹介されるため、だれでも名前を知っている鳥である。オシドリの雄が大きなイチヨウ羽を鮮やか見せながら、地味な雌と仲睦まじく泳いでいる姿を見ると、結婚式での言葉通りと納得することになる。

オシドリは11月ごろ大阪近郊の池に渡来し、4月頃には繁殖地に帰っていく。オシドリの好む池は全方向が見渡せる開放的な池ではなく、周囲から枝が覆いかぶさっていて、その下に隠れる所のある、暗い池を好んでいる。時々明るい日射しのところに出てくるが、地味な灰褐色の雌と並んで泳ぎ、理想的な夫婦を再確認させてくれる。

オシドリの繁殖地は日本の中部地方から以北の山地、森に囲まれた溪流で流れのゆるい所に住み、近くの樹洞(木のうろ)を巣にしている。巣が決まって雌が産卵するまでは、雄は雌や巣の近くにおいてオシドリ夫婦ぶりをしているが、雌が卵を温め始める頃になると、雄は雌の近くを離れオシドリ夫婦を解消している。

翌年晩秋になるとまた、大阪近郊へ戻ってきて、雄雌が夫婦のように仲良く泳いでいる姿を見るが、そのお相手は前年と同じでは無く、全く違う相手とペアを組んでいるようである。

北摂近郊で越冬中のオシドリが観察できる場所に、豊中市・千里中央公園「安場池」がある。通常は池に覆いかぶさった木の陰にいて見にくいですが、時には明るい所に出てくることもあり、トータル20~30羽のオシドリがいるとわかる。

一方、万博公園ではオシドリがいつも観察できるわけではないが、今月写真のような幸運な出会いの日がある。おそらく公園内に人気(ひとけ)のない朝早く、下記茨木カンツリー倶楽部にいるオシドリが、ドングリが多い万博公園に、餌を求めて飛来しているためと思われる。

その茨木カンツリー倶楽部へは、毎年1月全国一斉に行われるカモ調査に入場し、オシドリを含めたカモの個体数をカウントしている。オシドリは多い年で400羽以上、少ない年でも200羽前後が確認され、大阪府内でオシドリが最も多い所となっている。ゴルフ場内に3つの大きな池があること、大きな樹林にオシドリの好むドングリが多く、カメラマンが押し寄せることがなくゆっくりできることから、文字通りオシドリの聖地となっている。

このようにオシドリの越冬地となっている茨木カンツリー倶楽部や千里中央公園、そして採餌地となっている万博公園などで、毎冬オシドリ観察が楽しめることを願っている。

**** 写真 ****

種名：オシドリ

撮影日：2019年3月14日

場所：万博公園

撮影者：有賀憲介

お知らせ・探鳥会は中止

新型コロナウイルス感染症防止への対応のため、会報等でお知らせしている下記2020年3月度探鳥会を中止いたします。

今月は、オシドリを紙上バードウォッチングで楽しんでくださるよう、お願いします。

① 日本野鳥の会大阪支部主催 万博公園定例探鳥会

日時予定 3月14日(土)9:30~15:00

② 吹田野鳥の会主催 万博公園平日探鳥会

日時予定 3月17日(火)9:30~12:00

4月以降の探鳥会についてはその後の状況により再開・中止継続を決めます。

